

# News Letter

ニュースレター

2020.11 vol.117



そびえ立つテレビ塔が全長80mの水盤に映るインパクトあるゾーン。訪れる人を惹きつける絶景の撮影ポイント。

## 特集◎ 久屋大通公園とテレビ塔 官民連携が作り出す新たな魅力

### 調査研究

日本都市計画学会中部支部は今年で創設30周年を迎えます！

### まちづくり支援

令和2年度のまちづくり活動助成

### まちづくり来ぶらり

通りあれこれ

# 久屋大通公園とテレビ塔 官民連携が作り出す新たな魅力



地下から地上、テレビ塔へと3次元でつながるHisaya-odori Park。約295インチのデジタルサイネージで情報発信。



カフェやショップに立ち寄りながら散策。各施設までバリアフリー動線も確保され誰でもスムーズにアクセスできる。



桜通から北側、外堀通までのエリアは広々とした芝生広場。大きなケヤキは、建設当時の久屋大通公園の並木を受け継いだもの。

## 戦災復興計画で生まれた久屋大通

日本各地に甚大な被害を与えた第二次世界大戦末期の空襲。名古屋市においても、当時の市域16,000haの約4分の1が焼失し、名古屋城の天守や本丸御殿も失われました。そして迎え



1956年建設当初のテレビ塔と久屋大通

た終戦(1945年)。名古屋市はただちに大規模な戦災復興計画を策定します。復興を一手に担った田淵寿郎助役たぶちじゅろうは、来たるべき車社会を見据えた道路網の整備、大規模緑地公園の設置、点在する墓地の移転・集約など、焼け野原となった名古屋のまちに大胆かつ先進的な都市計画を打ち出しました。なかでも東西を走る若宮大通と南北を貫く久屋大通の2本の100m道路計画は画期的で、都心の都市軸でありながら中央に公園機能を持ち、災害時には火災などの延焼防止と避難所としての役割も込められていました。

戦災復興計画のシンボルでもある100m道路。その久屋大通に、日本初、各放送局のテレビ電波を1本のア

ンテナで受信できる集約電波塔の建設が決まり、工事が始まったのは1953年。翌年には名古屋テレビ塔が完成。戦災で壊滅的な被害を受けたまちの真ん中に立ち上がった高さ180mの銀色の塔は、名古屋市民に大きな希望を与えました。この「日本初」は官民協力がなしに成し遂げることはできないものでした。道路の真ん中に建物を建てる法規の壁をどう解決するか、建設地の下には地下鉄計画。支障をきたすわけにはいかない…。難問が立ちただかるたびに、未来の名古屋のシンボルのために官民が力を合わせました。久屋大通とテレビ塔。それは戦災復興計画を礎にして作り上げた、名古屋を代表する都市景観なのです。



夜景も一新。1,670万色のLED照明でライトアップ。



共有部の壁面にはテレビ塔設計者、内藤多仲の原図をコラージュ

## 再生計画が動き出す

「テレビ塔、公園、3つのデパート。これが栄の街らしさをつくってきたんです」と話すのは名古屋テレビ塔株式会社の大澤和宏取締役社長。しかし年月が経って公園の樹木は生い茂り、大型バスの駐車場ができるなど、「人の流れ」を止めてしまったと言います。そうした中、2013年「栄地区グランドビジョン」が策定され、時代とともに変化してきた公園の在り方、使い方を再検討しようと久屋大通公園の再生計画が動き始めました。都心のシンボル空間として人々が集い、憩い、ふれあう、栄地区を象徴する公共空間にふさわしい整備を行おうというものです。

めざしたのは、魅力的な集客施設を導入し、地上と地下、公園から沿道、さらにテレビ塔へと、にぎわいと人の流れを3次元でつなげる空間利用でし

た。「我々テレビ塔は単独で生きられない。タワーの足元の魅力はものすごく大事です。足元に人が集まりタワーも楽しんでいただく、そういう相乗効果が必要です。新しい久屋大通公園は、力強いパートナーになると思います」と、大澤社長も再生計画に大きな期待を寄せます。

## Hisaya-odori Park 誕生

久屋大通公園再生のために不可欠なのが、民間のノウハウを活用した管理運営の導入でした。先行して整備が始まった外堀通から錦通までの約1kmにわたる区間（北エリア【都会の安らぎ空間】とテレビ塔エリア【観光・交流空間】）では、2017年の都市公園法改正で新たに設けられたPark-PFI\*を活用して整備が行われました。事業者には三井不動産（株）が選定され、公園と店舗が一体となった日本最大級のPark-PFI事業を展開しました。

2020年9月18日、「Hisaya-odori Park」がグランドオープン。同時に名古屋テレビ塔も「MIRAI TOWER」をコンセプトにリニューアルオープンし

## 久屋大通公園とテレビ塔



ました。気持ちのいい都会の緑地スペース、木立の中のカフェ、名古屋初出店を含む約35の飲食物販店のにぎわい。そしてランドマーク・テレビ塔の景観資源を高めるため、全長80mの水盤が設置されたゾーンも見どころです。「栄エリアの魅力は広い公共空間と回遊性です。Park-PFIは公共空間の魅力を高め、その導入により再生されたHisaya-odori Parkは、まさにこれからの都市公園のモデルになっていくと思います」と大澤社長。Hisaya-odori Parkと名古屋テレビ塔。強力なタッグを組んで栄エリア活性化の起爆剤として始動します。

### \*Park-PFI

飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置と当該施設から生ずる収益を活用して公園施設の整備・改修等を一体的に行うものを公募により選定。都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しながら、都市公園の質の向上、利用者の利便性を高める新たな整備・管理手法。

さまざまなところに1956年竣工当時のものが残され66年の歴史が感じられる。



## 「MIRAI TOWER」へ込めた思い

大澤 和宏さん

名古屋テレビ塔株式会社 取締役社長

名古屋テレビ塔は、テレビ放送を担うと同時に、展望台を持つ観光タワーとして、放送事業と観光事業が共存しながら歴史を刻んできました。アナログ放送が終了し電波塔としての役割は終わりましたが、官民が一体となってつくり上げた歴史的意義や、幾多の台風、地震でもびくともしない「塔博士」内藤多仲（ないとうたちゅう）先生の設計による美しい銀色の構造物は、貴重な文化財としてますます価値を高めていきます。

今回のリニューアルでは最新工法で免震整備を行い、昭和のテレビ塔が「MIRAI TOWER」として200年、300年と続いていくという思いを込めています。戦後の日本を代表する貴重な文化財として残すべきものは残しながら、観光施設としてさらに魅力を高めていきます。





# 日本都市計画学会中部支部は今年で創設30周年を迎えます！

名古屋都市センターでは、日本都市計画学会中部支部が創設されて間もない時期から事務局としてその活動に関わらせていただいております。  
中部支部が創設されて今年で30周年を迎えることから、様々なイベントを企画しております。  
そこで、今年度の中部支部の活動についてご紹介します。

## 日本都市計画学会中部支部とは？

中部支部は富山・石川・福井の北陸3県と岐阜・静岡・愛知・三重の東海4県の都市計画学会員約400名から成り、本地域における都市計画に関する学術の進歩普及と都市計画の進展及び都市計画に係る専門家の資質の向上を図る活動を行っています。

行政や民間と連携した研究活動はもとより、支部研究発表会、公開シンポジウム、見学会、国際交流講演会等の様々な活動を行い、会員のみならず地域社会に提供することで地域社会に開かれた支部活動を推進しています。

## 支部創設 30 周年記念事業の概要

### 記念式典の開催

### 記念リレーシンポジウム（第一弾～第三弾）の開催

### 記念出版

### これまでの支部活動の記録と創設30周年記念事業を記録した記念誌発行

## 記念式典

中部支部創設30周年を記念し、日本都市計画学会長の出口敦様、愛知県都市整備局長の中川喜仁様、名古屋市住宅都市局長の藤條聡様からそれぞれ祝辞をいただきました。

そして、元中部支部長・顧問の伊豆原浩二様よりこれまでの支部活動を振り返っていただき、「留学生・若手外国人研究者との交流セミナー」や中部地域の都市計画部局と研究者との連携を探求する「行政連携事業」など特色ある活動についてお話をいただきました。

## 記念リレーシンポジウム（第一弾）

記念出版のタイトルでもある「変革社会に対応する都市計画像—動き始めた「コンパクト・プラス・ネットワーク」型都市への取り組み—」と題し、今後の課題と可能性・中部地域の将来についてパネルディスカッションを行いました。

その中で、日本が求めるコンパクトシティはどういったものなのか、リレーシンポジウムを通じて追求していきたいとの認識が示されました。



▲当日の様子（記念リレーシンポジウム）

### パネリスト



浅野 純一郎  
(豊橋技術科学大学 教授)



樋口 恵一  
(大同大学 講師)



福島 茂  
(名城大学 教授)



浅野 聡  
(三重大学 教授)



秀島 栄三  
(名古屋工業大学 教授)

### コーディネーター

記念リレーシンポジウムは、中部支部の活動では初めてとなるオンラインでのライブ配信で行いました。

## 記念出版

変革社会への対応のため、立地適正化計画を中心とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」型都市の構築を目指し、地域の実情に応じた、多様な視点を含む新しい都市像が求められています。

中部地方を中心に活躍する大学等の研究者、民間企業の専門家、行政の担当者らの最新の研究、実務、施策等を盛り込み、これからの都市像を描いています。  
是非お手に取ってご覧ください。



▲記念出版表紙

▶中部支部の活動および本の購入については  
HP (<https://www.cpij.or.jp/chubu/>) をご覧ください。





# 令和2年度のまちづくり活動助成

都市センターではこれから「まちづくり活動」を始めるグループや活動初期の団体のスタートアップを助成しています！

コロナのため、例年より2か月遅れですが、12の助成団体が決定しましたのでご紹介します。

## ▼ 初めて助成を受ける6団体

団体名	活動内容
気軽にすけっと	地域住民が気軽に相談・解決できる場作り
京田公園を花と緑の公園にする会	住民自らが花と緑の多い公園を作り、憩いの場所とする
池上台ハウス管理運営委員会	まちの縁側のような緩やかなたまり場作り
緑区片平学区子育て支援ネットワーク連絡会	子どもたちの健全な育成支援と子育て環境の整備・拡充
名古屋水域活用研究会（仮）	残存する舟運遺構を再現利用し、活用の可能性を探る
ハピサン Books	本を介して、幅広い年代によるコミュニティ作り

## ▼ 2、3回目の6団体

団体名	活動内容
2回目 覚王山コミュニティ・アーカイヴ	ひょうたん寺子屋実行委員会
	梅が丘三世代を繋ぐ会
	桃山学区防災ミーティング
	桃山学区健康危機管理サポーター実行委員会
3回目 大門まちづくり友の会	

京田公園を花と緑の公園にする会の

今号ではこのうち、公園の花壇づくりの活動についてクローズアップします。

### ● きっかけ

住民の憩いの場であった公園が、二年間にわたり下水道工事のため狭くなっていました。工事が終わったことをきっかけに、「花の多い公園にして地域住民の憩いの場にしよう!」という声が、老人クラブの中からでした。

### ● 行政との関わり

まずは土木事務所に相談しました。工事後の花壇は土が固くて、とても花が植えられる状態ではなく、土木事務所に相談すると、土づくりに協力してもらえることになりました。どのようなものなら植えてもいいかなども、教えていただきました。

### ● 仲間集め

もともと小学生の登下校の見守り活動をしており、保護者の方々を知っており、お声かけをしました。その中で「大丈夫です」というお返事が、YESなのかNOなのかすぐわからなかった!など、世代の違う方との意思疎通が難しいなと感じたこともありましたが、賛同いただける方にも出会えました。そのほか、町内の住民にこだわらず、この公園を利用する近隣の町内会にも呼びかけました。まちを歩いていて素敵な花壇を作られているご自宅があれば、訪問して、一緒に活動しませんかという声かけもしました。

### ● 活動への思い

どんな花壇にしたいか、みんなで話し合っていていきたい。こういった活動は、継続していくことが課題である。花壇は手段であり、その背後には、作業を通して住民の絆を深めるといった目的があることを忘れず、活動をしていきたいです。

### ● 地域との関わり

近所のホームセンターにも、活動に賛同いただけました。今後、花植えや堆肥作りなどのアドバイスをいただく予定です。また、知り合いの造園会社の方にも講師をお願いし、花の管理方法などを教えていただく講座を企画しています。

活動への  
～応援メッセージ～  
をいただいています!

### ● 田中良知選考委員

(公益社団法人名古屋青年会議所監事)

子どものころ、近所の公園の花植えや草抜き活動に参加していたが、今思えば、それが地域とのつながり作りとなった。まちづくりは、人づくり。地域の色々な人を巻き込んで交流を生み出しているこの活動は、地域コミュニティ醸成の第一歩だと思います。

### ● 土木事務所のご担当者様

「公園に花を植えて、地域の住民の交流の場にしたい!」との熱い思いに応えるため、花壇を耕しました。引き続き協力してまいりますので、これからの活動で住民の絆がより深まることを期待しております。





広小路夜見世



桜通 名古屋駅を望む



御幸本町通

## 通りあれこれ

清須越しによる名古屋開府以来、名古屋には名を持つ通りがいくつもできました。

**本町通** 碁盤割の時代から、名古屋のメインストリートとして栄えました。道幅が広く、名古屋商人が競って店を出す商業の中心地。昭和3年、天皇行幸に際し御幸本町通と改称されましたが、本町通の名は今も市民に親しまれています。

**広小路通** もともと堀切筋といいました。1660年の万治の大火で道幅が広げられ、広小路と呼ばれるようになり、以後たいへん賑わったと記録に残っています。明治19年の笹島停車場の建設に伴い延伸され、明治31年から昭和46年までは市電が走っていました。

**桜通** 沿道に桜天神社があることから名付けられました。昭和12年、笹島にあった名古屋停車場が現在の名古屋駅に移転した際に、堀川東岸までだった桜通は名古屋駅まで拡張延長されました。

**大津通** 山城の国大津の四郎左衛門が移り住んだという大津町に由来し、明治40年の名古屋港開港に際して拡張整備がなされました。現在、栄交差点から南は百貨店が並ぶ華やかな道筋となっています。

**若宮大通** 戦後の復興期にできた100m幅の大通りです。沿道の若宮八幡社に因って名付けられました。通りができる以前はアメリカ村(米軍駐留地)や下水処理場の一部などが位置していました。

**久屋大通** 若宮大通と同じく、戦後に作られた100m幅の街路です。「久屋」の由来として、初代尾張藩主徳川義直が、土地の繁栄を願って干物町を久屋町と改名したことが伝えられています。現在は大通り一帯の再開発が進んでいます。

名古屋の街では、このように幾筋もの通りが、町の移り変わりを伝えていきます。普段何気なく歩いている通りは、長い歴史へと続いています。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

### ◆参考文献◆

- 『花の名古屋の碁盤割』沢井鈴一/執筆 (Se-ナ)
  - 『名古屋広小路ものがたり』沢井鈴一/著 (Se-サ)
  - 『古地図で歩く城下町なごや』古地図で歩く城下町なごや実行委員会/企画制作 (Se-1)
  - 『なごやの町名』角川書店/編 (Se-カ)
  - 『名古屋で広幅員街路を考える 広幅員街路と都市空間』日本建築学会都市計画委員会/編 (1C-エホ-85)
- ※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

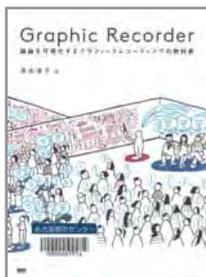
まちづくりライブラリー  
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。

## 図書紹介

### 『Graphic Recorder 議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書』

著者：清水淳子  
 出版社：ピー・エヌ・エヌ新社  
 請求記号：Pz-シ

会議などで議論が白熱した時に、思うように意見が伝わらない経験は、誰しもあるでしょう。グラフィックレコーディングとは、議論を絵により可視化する手法です。言葉だけの議論の齟齬を防ぎ、わかりやすく会議を進められます。本書では、基礎から実践まで順を追って、グラフィックレコーディングの手法を学べます。



### 『なぜ、コメダ珈琲店はいつも行列なのか?』

著者：高井尚之  
 出版社：プレジデント社  
 請求記号：Se-タ

名古屋発祥のコメダ珈琲店は、全国各地に出店し、人気店となっています。シロノワールのデニッシュの秘密、クリームソーダの容器は、なぜ長靴型なのか等、気になるコメダの雑学コマダスを40個知る事ができます。本を閉じた後は、コメダに珈琲を飲みに行きたくなるでしょう。



### 『東海のジオサイトを楽しむ』

著者：森勇一  
 出版社：風媒社  
 請求記号：Nc-ト

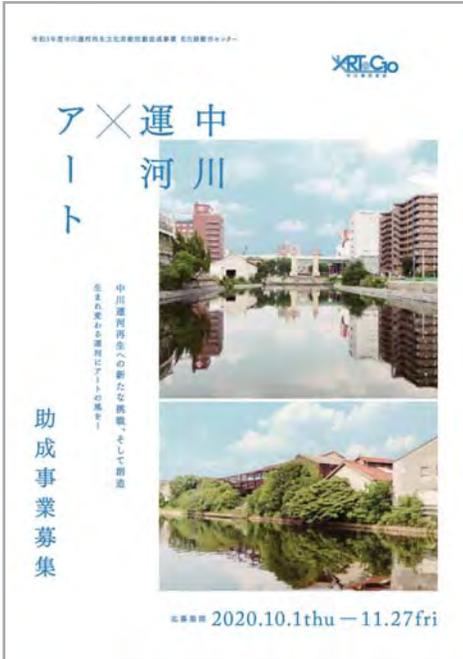
ジオサイトという言葉を知っていますか？ 本書では、地球の営みやヒトの自然への働きかけなどが観察できる場所という定義をしています。一般向けの地学の教科書として、気楽に読み、気になった場所を実際に訪ねて、新しい体験を試してみましょう。実体験を通して、日本の豊かな自然を感じる事ができます。



1

令和3年度

## 中川運河助成ARToC10(アートックテン)の募集



名古屋都市センターでは、中川運河「にぎわいゾーン」の魅力向上をめざし、中川運河を舞台とする市民交流・創造活動につながるアートへの助成を行っています。

中川運河の「場」を活かす斬新な発想と実験的な取組みにより、「シビックプライド(街への誇り)」を地域に育む創造的なアートを募集するプロジェクト部門と、プロ・アマ問わず、すべての人がアートでチャレンジし、市民や地域の方々の運河への関心を高めるようなアートを募集するトライアル部門での募集を行います。多くの方のご応募をお待ちしております。

※アート…作品発表やワークショップ、イベントの開催などの活動

### 《助成金額》

- プロジェクト部門 最大300万円
  - トライアル部門 最大50万円
- 1団体または1個人につき、1提案のみ応募可能です。

### 《応募できる方》

東海三県(愛知・岐阜・三重)に在住または在勤、在学する者、またはその者を構成員に含む団体。(代表者は20歳以上であること)

### 《応募受付》

10月1日(木)~11月27日(金) 17時まで  
場所:名古屋都市センター13階 事務室

応募方法など詳細は名古屋都市センターHPをご覧ください。

<http://www.nup.or.jp/nui/human/nakagawa/index.html>

※この助成事業は、「中川運河再生計画」(平成24年10月名古屋市長・名古屋港管理組合策定)の趣旨に賛同されたリンナイ株式会社の寄附を活用しています。

2

## 機関誌アーバン・アドバンス No.74

### 「水辺を活かしたまちづくり」発行

アーバン・アドバンスは、まちづくりに最前線で携わる方々の論文、名古屋都市センターの研究成果などを掲載しております。

74号(2020年9月発行)のテーマは「水辺を活かしたまちづくり」です。近年、水辺は都市のもつ魅力として再認識され、水上交通などによる交流活性化や、多様な人々が集い新たな価値を生む場といったまちづくりへの活用が期待されている中、全国の水辺において実践的にまちづくりに取り組む最新の知見を多数取り上げました。



●本誌は、名古屋都市センター12階 まちづくりライブラリーにて販売しております。(定価 700円)

3

## 名古屋都市センター11階 まちづくり広場 天井工事に伴う休館について

令和3年4月1日から令和4年3月31日(予定)にかけて、天井工事に伴いまちづくり広場を休館させていただきます。まちづくり広場内にある喫茶コーナーにつきましても休業させていただきます。

また、12階まちづくりライブラリーにつきましても、11階の天井工事に伴う影響を考慮し、同期間、原則休館させていただきます。

なお、再開時期については詳細が決まり次第当館のホームページなどを通じてご案内いたします。

ご利用のお客様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



# 昔

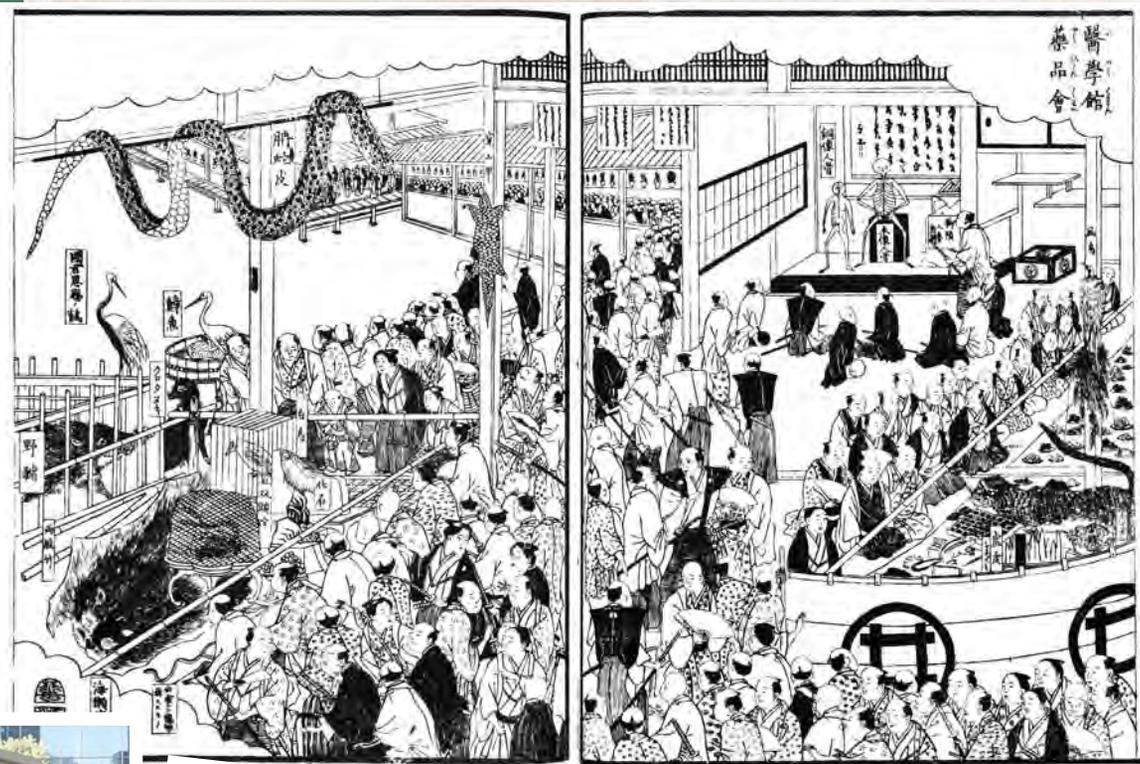
医学館  
薬品会

人々の医学への好奇心を  
刺激する

大きな蛇に動物の皮、柱に括りつけられた鳥に、木像人骨。そして、奥の建物にまで続くおびただしい数の人々…。

江戸時代後半、尾張藩の侍医・浅井家の自邸内に設けられた医師の養成機関「尾張医学館」。そこで定期的に行われた「薬品会」の様子です。「薬品会」と名乗っていますが、国内外から集めた動物・植物・鉱物など、さまざまな珍しい品々を集めて展示しています。よく見ると、刀を差した武士から、僧侶、子どもまでさまざまな人が集まっていることがわかります。人々の医学に対する知識を啓蒙するとともに、もの珍しい物品を見ることができ、人々の好奇心を刺激する場でもあったのではないのでしょうか。

医学館があったのは現在の市営地下鉄伏見駅からほど近い中区錦通付近。かつて城下町のメインストリートであった広小路や本町通にも近い立地でした。絵図だけを見ると広大な屋敷のように感じますが、城下町の基盤の目のような町割りの一区画の中に、他の武家屋敷とともに収まっていた。現在は屋敷の面影もなく、整然とした町割りだけが残っています。



錦通沿いに立つ「医学館跡」の立札



向かって右側の区画にかつて尾張医学館があった。  
建物のあった場所について、尾張名所図会には「蒲焼町筋長者町の西の南側にあり」と記されている。

〈参考文献〉※( )内はまちづくりライブラリーの請求番号です。  
『新修名古屋史第4巻』新修名古屋史編集委員会／編 (Sc-f)  
『城下町・名古屋 江戸時代の町と人』名古屋博物館／編 (2B40-87)  
『企画展 よみがえる尾張医学館薬品会』名古屋博物館／編 (2B40-93)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

**名古屋都市センター**  
**Nagoya Urban Institute**

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

http://www.nup.or.jp/nui/



利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場(展示スペース・ホール)

火～金曜日:10:00～18:00

土・日曜日・祝休日:10:00～17:00

※喫茶コーナーは令和4年3月31日まで営業を休止しています。

【12階】まちづくりライブラリー

火～木曜日:10:00～18:00

金曜日:10:00～20:00(当面の間18:00まで)

土・日曜日・祝休日:10:00～17:00

【休館日】

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始

(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

